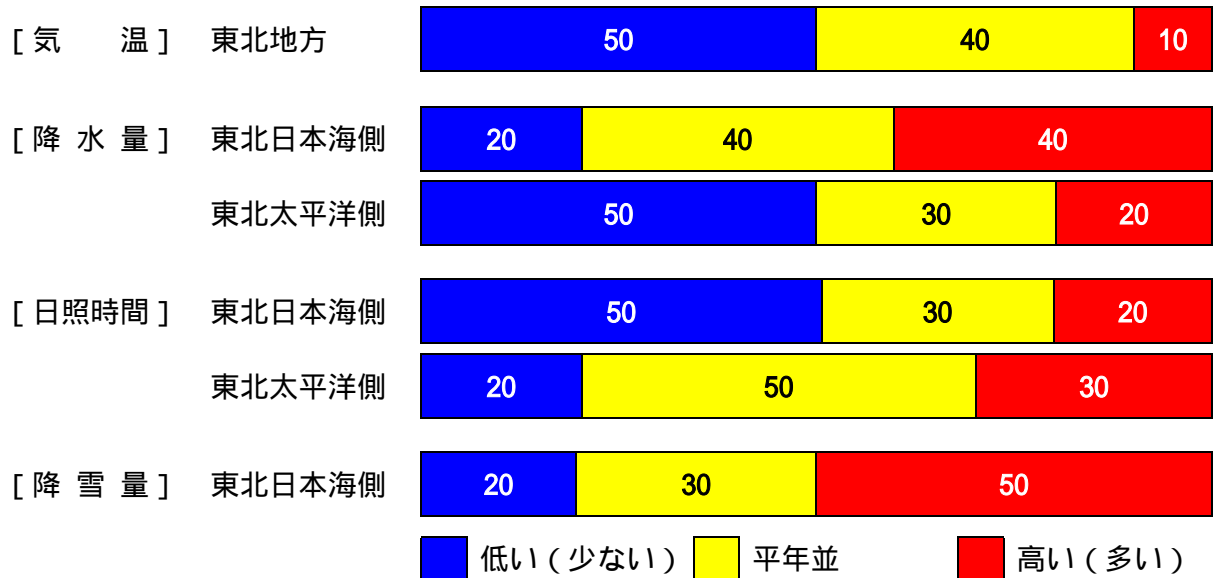


東北地方の 1 か月予報解説資料（予報期間：12 月 8 日～1 月 7 日）

平成 13 年 12 月 7 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「低い」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 40%です。「高い」の可能性は 10%と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。
東北太平洋側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。
東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

2．予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

12月中旬にかけては、強い寒気が入って冬型の気圧配置が強まる時期があるでしょう。東北日本海側では平年に比べ雪の日が多く、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多いでしょう。

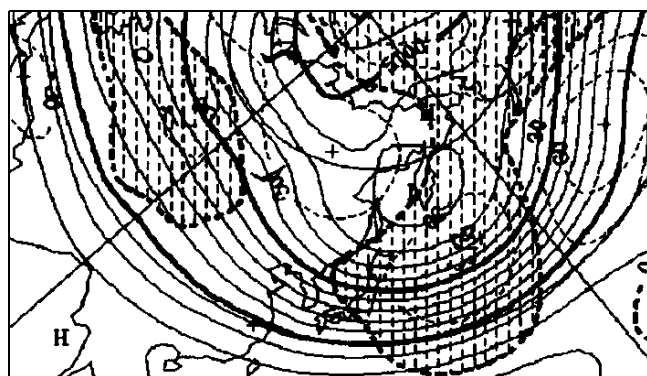
平均気温は低いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約17日

各予報期間の天候の特徴

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1週目……………
(12月8日～12月14日) | 期間の前半は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪が降るでしょう。東北太平洋側では概ね晴れる見込みです。その後は東北日本海側で晴れる日もありますが、期間の終わりには気圧の谷の通過で天気がくずれるでしょう。
平均気温は低いでしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日 |
| 2週目……………
(12月15日～12月21日) | 冬型の気圧配置が強まり、一時強い寒気が入るでしょう。東北日本海側では平年に比べ雪の日が多く、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多いでしょう。
平均気温は低いでしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日 |
| 3～4週目……………
(12月22日～1月4日) | 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。平年同様、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。
平均気温は平年並でしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約9日 |

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

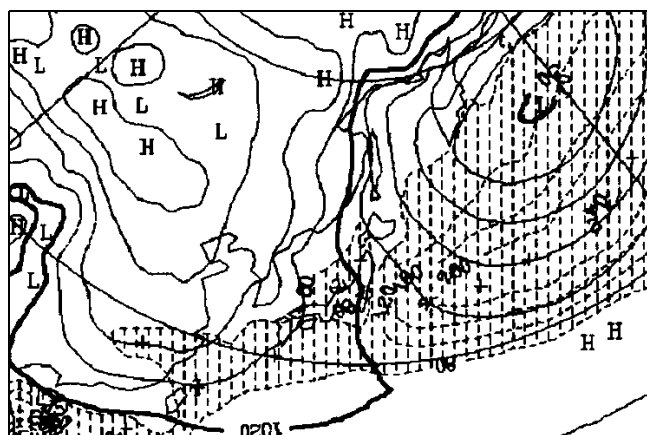


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、バイカル湖付近から北東に強い正偏差で、極渦はオホーツク海まで南下し、日本付近は東海上にかけ負偏差に覆われる。このため、寒気の影響を受けやすい。

週別（図略）では、1、2 週目は北日本は負偏差に覆われる。3～4 週目は弱い正偏差だが、バイカル湖付近は正偏差、日本の東海上は負偏差で基本的には冬型の気圧配置になりやすい。



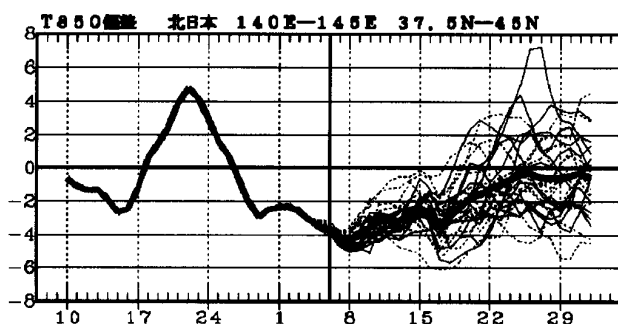
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に優勢な高気圧があり、アリューシャンには発達した低気圧があって、日本付近は冬型の気圧配置となっている。

まとまった降水域は、日本の東海上だが、日本海にも降水域が広がる。

週別（図略）では、各週とも月平均と同様で冬型の気圧配置となっている。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

(縦軸：気温平年差(℃) 横軸：日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1、2 週目は平年を大きく下回るが、3 週目以降は平年並に近づく。

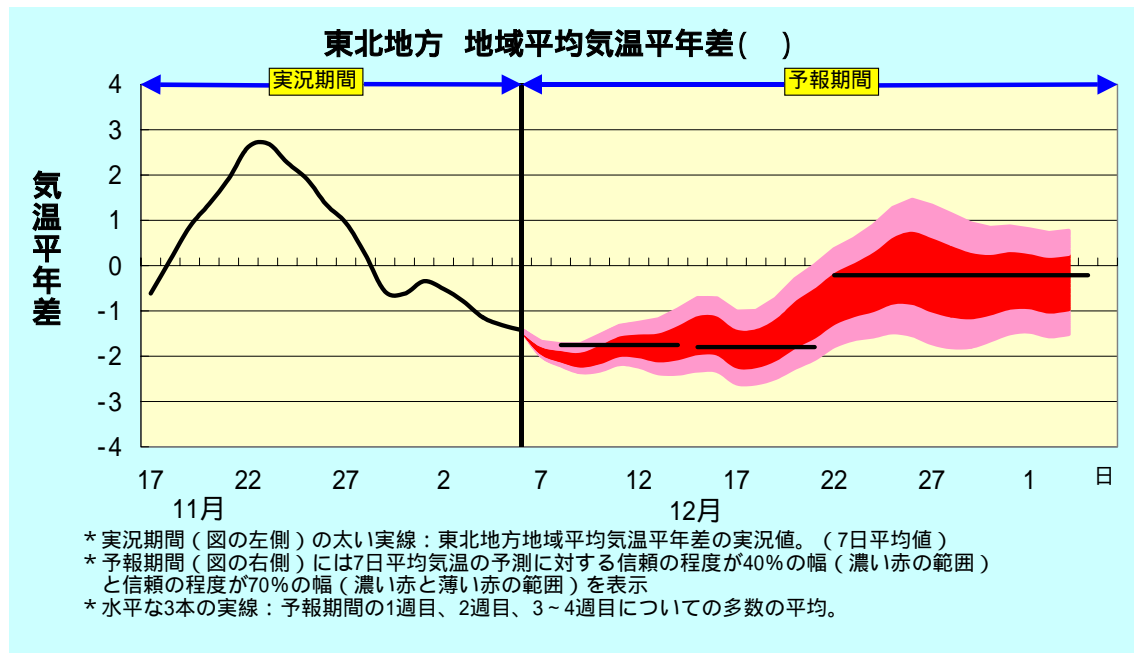
なお、2 週目後半から各メンバーのばらつきが大きくなり、高温を予想するメンバーもある。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目、2週目は「低い」、3～4週目は「平年並」を予測している。

予報は、予測通りとする。

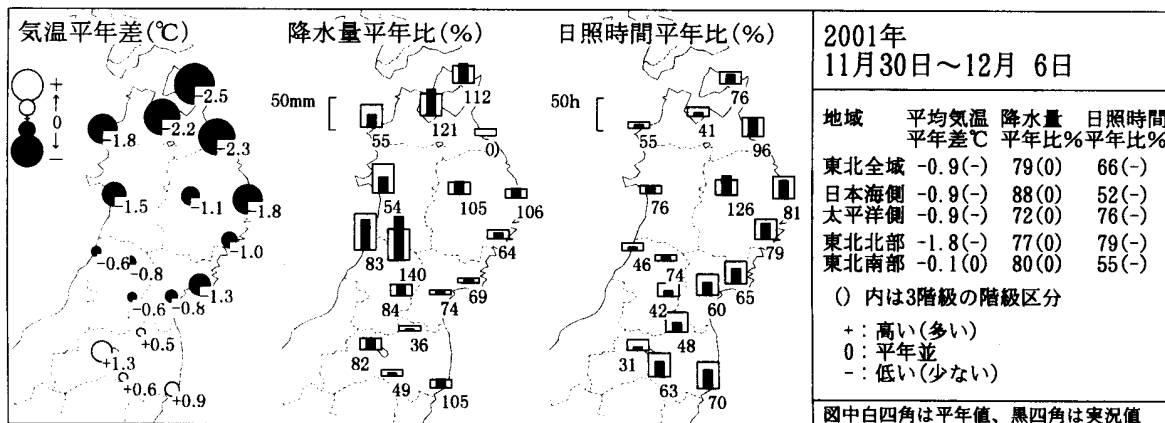
なお、予報の信頼度は大きい。



4．最近1週間(11月30日～12月6日)の天候の経過

気圧の谷が短い周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となった。このため、東北日本海側では雨または雪の日が多かった。東北太平洋側では、気圧の谷の影響は小さく、晴れまたは曇りの日が多かった。また、東北地方は北ほど寒気の影響を受けやすく、東北北部は低温となった。なお、3日に宮古、6日に福島で初雪を観測した。

平均気温は、東北北部で平年差-1.8 と低く、東北南部で平年差-0.1 と平年並だった。降水量は、東北日本海側で平年比 88%、東北太平洋側で平年比 72%と共に平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比 52%、東北太平洋側で平年比 76%と共に少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)